

駿河の海から贈りもの

A Present from the Sea of the Suruga Bay,

Central Japan

岩崎行伸

駿河湾産魚類は約1150種が記録されている(1996)。日本本土沿岸の海域では土佐湾の1233種に比肩される。駿河湾は湾口部で約2.5km、湾奥部でも約1kmを越す水深の海湾であり、外洋黒潮系水が入り込む世界的に有名な海域である。

その特徴の1つは、周年来遊分布するサクラエビ・イワシラスとブランド化を始めたトラフグである。この種は資源の永年保存のため、早くから漁業協同組合として乱獲を防ぐのに漁期間を設けて(春漁・秋漁)、漁獲調整を自主的に行い成功している沿岸漁業である。

ここではこれまでに解明されている、三種の漁業生物学的研究について述べる。

1) サクラエビ *Sergia lucens* (HANSEN) : 海洋におけるサクラエビは、プランクトン(浮遊生物) & マイクロネクトン(小型遊泳生物)として扱われている。桜の花の色に由来し、日本の呼び名である。サクラエビの漁獲いわれは、この漁業が本格的に発展している頃(1894)漁師がアジ漁の網樽の結び方悪く解け、深みに入ったところに多量のサクラエビを獲ったのが始まりという。

幼生は放卵後約1半で孵化、体長0.32mmのノ-プリウス期となる、約1ヶ月後には後期幼生1から4で体長7.5mmとなる、10~12ヶ月では約40mmに達し産卵を始す。サクラエビ漁業の特色は、他の漁業(歩合制)には見られないプル制(1965)がひかれてどの船も均一に分配されることである。漁期は春漁と秋漁の二期が設定されている。二期の漁獲量関係の研究によれば、両者の間には有意な相関値が得られなかったが、春漁と年間漁獲量の間には $r=0.794$ 、秋漁と年間漁獲量の間には $r=0.897$ といずれも有意な相関関係が成り立っていることが明らかとなった。すなわち、秋漁が好漁であると、その年漁獲量も多くなると予測される。5月の春漁の内、港祭りにサクラエビ祭りが催される。



図1. 富士山とサクラエビの天日干し（富士川河川敷）

2) シラス *Engravis japonica*: 海況が平穏の日に、早朝から水深20～30m辺の砂地のところで、魚群探知機により魚群映像分布を見ながら船速1～2ノットで2そう曳きする。3月頃からイワシ稚魚（シラス）が駿河湾の沿岸に来遊してくるので、これらを群を捕捉する。種類は分別されないが、先にカタクチイワシ、マイワシ、ウルメイワシが混じる。春漁と秋漁の二期操業される。イワシ類の来遊分布は黒潮流路の前縁の潮境部（低温域）に集群するので、年々の黒潮前戦の接岸状態が漁獲状況に大きく左右している。春漁の一日、シラス祭りが各港市場で行われる。

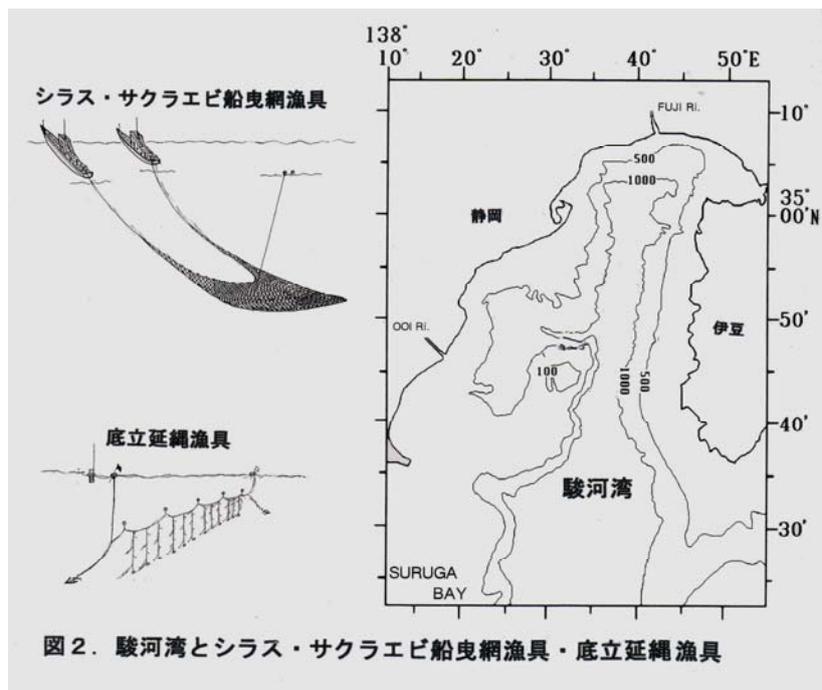


図2. 駿河湾とシラス・サクラエビ船曳網漁具・底立延縄漁具

3) **トラフグ** *Takifugu nubiipes*: フグは、奈良・平安時代にはふくと呼ばれていた。現在のように、フグと呼ばれるようになるのは江戸時代になってからである。語源は、腹がふくれていること、怒ると腹がふくれること等の“ふくれる”が転じたという説、ふくべ(ひょうたん)に形が似ていることから転じたという等々の説がある。日本古来「河豚は食いたし、命は惜しい」といわれるように、河豚類には強い毒性が知られる。仲間は世界中の熱帯から温帯域に広く分布し日本近海にも50種を超えるフグ類が生息している。近海のフグ類の殆どが体のいずれかに毒を有している。

フグ類の中でも高級魚と名高いトラフグは、九州/下関が有名で、肝臓・卵巣に毒を有している。毒の成分は、テトロドトキシンと呼ぶ物質で、その属性は青酸カリの500~1000倍ともいわれ、数ミリグラムでヒトを死に至らしめる。他の魚では熱帯に棲むツムギハゼも毒を有し、他に貝類・カニ類・海藻の仲間からもフグ毒が見つかった。

ところで、生簀で養殖されたフグの大半は無毒であるというが、フグ毒はどこから来た?。これまでの研究によると、フグ毒は自然の海水中に存在する海洋細菌が作り出し、それが餌を通して体の中に入って蓄積されているという。この毒は加熱しても無毒化されない上、解毒剤もないという大変恐ろしい。

トラフグは潮の速い伊勢湾口の3から7月頃に産卵し幼魚期を過ごして外海へ。成長は早く、1年で25cm(全長)、2年で34cm,3年で45cmになって産卵を始め、70cmまで成長記録がある。

静岡県では、10年前から浜名湖周辺、遠州灘の天然トラフグ(底延縄釣り)のブランド化の取り組みが始まっている。

参考図書

- 1) 新版・駿河湾の自然(1996):漁業形態とその対象種、岩崎行伸著
- 2) 伊勢湾と遠州灘(1997):トラフグの漁業と資源管理、安井港・田中健二・中島博司、恒星社厚生閣、多部田修編
- 3) 駿河湾からの贈りもの(1999) サクラエビ、黒船印刷、池松政人編著

添付資料

図1、サクラエビと富士山(富士川河川敷)

図2、駿河湾の海底地形とシラス・サクラエビ曳網漁具、トラフグ底立延縄漁具